

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年1月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890600343
事業所名 (ユニット名)	社会福祉法人亀天会 グループホーム竹梅小路 梅ユニット
記入者(管理者) 氏名	星野 千代
自己評価作成日	令和2年1月6日

<p>【事業所理念】 ～あたたかく、さりげなく～「出会い」と「笑顔」を大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・日常的に外出を行う。→地方祭や紅葉狩り・初詣など、近くの神社まで散歩し、季節の実感してもらえるように対応した。気分転換が出来、とても喜んでた。 ・どのご家族にも施設の活動状況を同じように理解してもらう。→運営推進会議の案内は、決まって人でなく参加をお願いしている。広報誌にも、その様子を掲載している。 ・災害の備えについて→防災訓練の実施報告を運営推進会議で行い、非常食の試食会も近くの同法人特養施設と行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して3年目の事業所は中心市街地に立地し、建物は新しく広々としており、利用者が安全に移動できるよう、建物内はバリアフリーで手すりが設置されている。管理者は長らく在宅支援に携わり、法人内の他事業所から異動してきたばかりであるが、利用者の自立支援に向けた取組みを実践している。今後は地域との交流など活動の幅を広げていくことで、さらに発展することが期待できる事業所である。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎ 入所事前面接で、ご家族やご本人に移行の確認をしている。日々の暮らしの中で、利用者との会話を大切に、ご本人の意向を尊重している。</p> <p>◎ ご本人の表情は観察し、職員間で話をしてご本人の立場に立って考えるようにしている。</p> <p>◎ 面会に来られた時に、施設の様子を伝え、お家での様子や若いころの様子などを聞きながら、ご本人の思いをくみ取るようにしている。</p> <p>◎ 日々の生活の中で、ご本人との会話など、記録を残し、情報共有に努めている。</p> <p>◎ ご本人の言葉や言動に注意し、尊厳を持って対応している。</p>	○	/	/	/	○	利用者との日々の関わりや日常会話の中から、職員は一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎ 入所事前面接で、生活歴の聞き取りをしっかりと行い、本人の趣味や楽しみが続けていくことが出来るように、アセスメントをしっかりとっている。</p> <p>◎ 出来る事・できないことを見極め、出来る事は続けられるように支援している。また、出来るようなことを見つけ出し、少しずつ出来るように支援している。</p> <p>◎ 毎日の生活の中で、ご本人の細かい観察を行い、どのような場面になると表情が変わるかなど、職員間で情報交換を行っている。</p> <p>◎ 朝・夕の申し送りや担当者会議など、不安要因が何かを探り、改善に努めている。</p> <p>◎ ご本人の生活リズムを把握し、個々のケアに努めている。</p>	◎	/	/	/	○	入居時に事前面談を行い、これまでの暮らしについて利用者や家族から聞き取るほか、これまでに関わってきた介護支援専門員や関係機関からもサービス利用の経過などの情報を得て、職員間で共有している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎ アセスメントの内容は、ユニットで共有し、チームとしてケアに当たっている。</p> <p>◎ ご本人の状態を把握し、変化のある時は、その都度話し合い、必要な支援方法を探っている。</p> <p>◎ 日々の生活状況を共有し、ご本人の課題とする内容を見つけ出している。</p>	◎	/	/	/	○	家族の意向や要望も含め、日々得られた情報は職員間で共有し、利用者の視点で検討している。

愛媛県グループホーム竹梅小路

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	支援方法など、具体的内容を書き込み、職員の方向性が同じ方向に向くように計画書を作成している。	/	/	/	利用者や家族の意向を踏まえて関係者で話し合い、出された意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	担当者会議などを通し、ご家族の思いや希望などを考慮しながら、専門職としての意見交換を行い、計画書の作成を行っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	意思疎通の困難な利用者には、ご家族の聞き取りを行い、ご本人の思いをくみ取るようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	ご家族の支援や地域ボランティアなどを取り込み、チームケアを心掛けている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員一人一人が計画書を理解し、計画書に沿ったケアに努めている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画は、担当者会議や申し送りで共有している。モニタリングは月1回行っているが、計画に沿ったケアの実践や結果の記録が不足しているため、職員間で話し合い、根拠のあるモニタリングができるよう工夫して欲しい。利用者の言葉や行動など暮らしの様子は介護記録に記録し、職員の気づきやアイデアなどは申し送りノートに記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の記録は、介護計画書に基づき、記入するようにしている。職員が記録を見る事で、情報の共有が出来ている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ケース記録に、その日の利用者の言葉やしぐさなど、記録に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	毎日、個々に記録を残し、ご本人の様子や気づきを記入するように心がけている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じた見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとに見直しをしている。変化が見られない場合でも毎月モニタリングを実施し、利用者の現状確認を行っている。入院など状態に変化が生じた場合は、必要に応じて担当者会議を開催し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	モニタリングを毎月行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ご本人の身体状況の変化があった時は、見直しを行い、新しい計画作成を行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	計画の見直しの時には、会議を開き、ケアの統一を図っている。	/	/	○	現在、定期的には会議を開催していないが、緊急案件や課題が明らかになった場合は、その都度出勤職員で話し合いを行っている。話し合いに参加できなかった職員には、申し送りノートや口頭で伝達し、申し送りノートは確認後に押印する仕組みを作っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	各専門職からの意見を聞き、話しやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	ユニット職員が参加しやすいユニット内で会議を行い、落ち着いた時間帯を設定している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議の内容は、申し送りノートに記入し、情報共有を行っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートやユニット内のホワイトボードを利用している。	/	/	◎	利用者の受診日時や職員会議の予定などはホワイトボードに記入し、利用者一人ひとりの情報や会議の内容などは申し送りノートに記入して職員間で共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	閲覧簿をつけ、終始徹底に努めている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	季節を実感しながら、やりがいを見つけられるように支援している。	/	/	/	洋服や飲み物、レクリエーションなど、日々の暮らしの様々な場面で利用者が自己決定できるよう、職員は利用者のペースに合わせてながら対応している。ゲームや体操、歌など利用者の得意なことを活かし、職員は活き活きとした表情を引き出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	生活の中で、洋服を選ぶ・好きな飲み物を選んでもらうなど、考える時間を取り、ゆっくり対応する事で、選ぶ楽しさを見つけている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	焦らすことなく、ゆっくり職員が対応し、自己決定が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	ご本人の意向を確認し、利用者主体で、一つ一つのケアを行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	ご本人の楽しみや得意としているものを聞き出し、役割のある暮らしが出来るように支援している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や小津差で、利用者本人の気持ちをくみ取るように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	勉強会を通して、日々言葉かけや態度など、気を付けている。	○	×	△	職員は利用者の人権や尊厳に配慮した声かけや態度などについて研修で学び、常に意識して行動している。地域アンケートの評価が低く、地域にはそのことを認識してもらえていないと思われるため、今後は地域にも認識してもらえよう努めて欲しい。トイレ誘導の際も、利用者にさりげない声かけをして対応している。利用者の居室はきちんと閉められており、出入りの際には職員はノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	トイレ誘導や入浴の声かけなど、ご本人の尊厳を配慮した声かけを行う。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	本人の羞恥心を考え、ドアを開け、大声で話さないなど、配慮した対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	職員は、居室に入る時は、ノックして入り、ドアを開ければなしにしない。プライバシーの保護に努めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者の知りえた情報を口外せず、漏えい防止に止めている。また、研修も行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	ご本人のできる能力活かしてもらえように、出来る事は手伝ってもらっている。人生の先輩として、尊敬の念を忘れないようにしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握している。トラブルを未然に防ぐ配慮を考え、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるよう配慮している。法人合同のイベントでは、くじを引いて席を決め、利用者が孤立しないよう工夫をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いにいたわりあいながら、暮らしており、職員も大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	それぞれの特技を理解し、利用者職員が関わりながら生活している。認知症の人ばかりなので、一人だけ孤立しないように、職員が間に入り、座席の配慮など行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が常に見守りを行い、トラブルになりそう時は、うまく話をそらし、間に入る。トラブル回避が出来ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所面接に生活歴の聞き取る際、ご本人の人間関係の情報収集を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所面接時の聞き取りや入所後の会話を通して、情報収集をしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	長年住み慣れてきた地域との関りを途絶える事ない様に、家族の協力を得ている。また、友人の面会もある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	家族や友人の面会時には、居室に誘導し、ゆっくりお話ができるように気を付け、来客者にもお茶を提供している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	ご家族の協力も得て、外出する機会を多く持つようにしている。利用者の気分転換を兼ねて、季節行事には外出する機会を持つようにしている。	△	×	△	つつじやあじさい、さくらなど季節の花見、近所の神社への散歩、誕生日の利用者と一緒に隣にある喫茶店に出かけるなど、外出の機会を持つようにしているが、頻度は月1回程度にとどまっている。今後は重度の利用者を含め、玄関先に出て外気浴をするなど、気分転換が図れる取組みを望みたい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	職員や家族の対応で、外出する機会を持っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	利用者全員が外出する機会が持てるように支援している。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	喫茶店への外出行事など取り入れている。家族も訪問時には、本人の好きな所へ一緒に出掛け、食事など楽しんでいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症についての内部研修を行い、一人一人の症状にあったケアを心掛けている。	/	/	/	職員は利用者のできることを把握し、一人ひとりが能力を発揮できるよう見守り支援を心がけている。調査時には、食事やトイレ移動の場面で職員が極力手を出さず、利用者を見守る姿が確認できた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日常生活の中で、体操やレクで体動かし、機能の維持が出来るように支援している。トイレや浴室・居室など、フロアの移動時にご自分で歩き、食事や排泄も出来る所は、時間がかかってもご自分でしてもらるように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	焦らず、ゆっくり見守り、ご自分ができる能力を発揮できるようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所面接やご本人との会話の中で、出来る所・得意とするところを見つけ、役割のある暮らしが出来るように支援している。	/	/	/	洗濯物たたみや下膳、コップ洗い、おやつ作り、楽器演奏など、職員は、利用者が得意なことを活かして楽しみながら役割や出番を担えるようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人のレベルに合わせた支援の中で、出来る事を見つけて出し、少しでも、役割を持って生活が出来るように、支援していく。	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	外出時の挨拶・地方祭の見学など、地域の中での楽しみが持てるように支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム竹梅小路

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	家族や本人の聞き取りの中で、今までの暮らしを把握している。				排泄後の着衣の乱れや食事の際の食べこぼしは、利用者の自尊心を傷つけないよう、さりげない声かけをしてカバーしている。重度の利用者を含め、2か月に1回は訪問理美容で好みの髪型にカットしたり、朝夕に更衣を行って季節に合った服装に着がえたりするなど、その人らしさを損なわないようにしている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご家族が持って来てくれる化粧道具を使って化粧したり、洋服を選んだり、その人らしい暮らしが出来るように支援している。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員が利用者者に似合う色や洋服選びなどしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	家族に衣替えをお願い、季節に合った洋服選びを行い、外出時にはいつもと違っておしゃれをしてもらうようにしている。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	職員が利用者者にそれとなく声かけを行い、スポンを直したり、おしぼりで口を拭いたりしている。		○	○		○
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人の馴染みのお店に行き、髪を切っている利用者もいるが、家族の意向で、訪問理美容を利用する方が多い。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	訪問理美容や職員の支援で、ご本人に沿った支援が出来ている。					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の大切さを理解する事が出来ている。				食材は、委託業者から冷凍食品を仕入れ、事業所では炊飯と汁物を作り、届いた副食を湯煎して提供している。利用者はコップや箸並べ、下膳、コップ洗いをしている。献立づくりの際には、利用者の好みやアレルギーを考慮して代替食にしたり、季節の食材を取り入れたりしている。食器は利用者の状態に応じ、使いやすいものを事業所で用意している。職員は休憩時間を優先し、利用者と一緒に食事を摂っていないため、管理者などには利用者と一緒に食卓を囲めるよう業務分担するなどの検討をして欲しい。利用者は、日中はほとんどリビングで過ごし、食事の時間には対面キッチンから漂う炊飯の匂いを感じている。食事前の口腔体操や献立の紹介など、食事が待ち遠しくなる雰囲気づくりにも努めている。毎月給食会議を開催し、法人の管理栄養士に食事形態などを相談し、バランスの取れた食事が提供できるよう話し合い、業者に伝えている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事の準備や下膳・コップ洗いなど、利用者と一緒にやっている。					○
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	お手伝いをしてもらうことで、ご本人の表情が明るくなり、積極的に関わってくれるようになっていく。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者のアレルギーの把握を行い、代替え食材を準備するなどの対応を行っている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	季節感を実感できる献立作りを行っており、おやつ作り等も、一緒に作り、季節感を味わってもらっている。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いづれ器の工夫等)	◎	いづれを考えた盛り付けや食器選びなど、食欲をそそるように工夫している。食べやすい食事作りをここがけている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	持ちやすい・軽い物を選らんでいる。					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事は利用者のみで行い、常に見守り・介助を行っている。					△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	同じフロアで食事の準備を行い、ニオイや雰囲気を感じてもらえるようにしている。		○			○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分摂取量や食事量など、毎日把握し記録に残している。水分は、一日1000ccは摂ってもらうように対応している。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取量の確保に、お茶だけでなく本人の嗜好に合わせた飲み物を提供するようにしている。回数を多くしたり、タイミングをずらしたりして、対応している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	委託業者より食材が届くが、施設の意向などを伝え、季節感を実感できる献立を考えて貰っている。					◎
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	内部研修を行い、衛生面に気を付け、感染予防に努めている。					

愛媛県グループホーム竹梅小路

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの大切さを理解し、口腔ケアの徹底に努めている。				利用者は毎食後リビングの洗面台で口腔ケアを行い、職員は一人ひとりの口の中の健康状況を確認している。できない部分は職員が介助し、義歯は夜間洗浄液に浸けている。利用者の口腔内の衛生状況には十分留意し、清潔が保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後、口腔ケアを行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	口腔ケアの大切さも理解し、歯科往診の時など、歯科衛生士から指導も受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の手入れの介助を行い、洗浄剤に浸けている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨きが出来ない人には、歯磨きの介助を行い、口の中の清潔保持に努めています。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	本人・家族と相談し、往診や歯科受診などに繋げている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレで排泄が出来るように、日中はトイレ誘導を行い、身体機能の維持や意欲の控除湯に繋げている。				利用者がトイレで排泄することを基本として支援しており、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへ誘導をしている。おむつなど排泄用品の使用は職員間で話し合い、その時々利用者の状態に合ったものを使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	レクや体操を通して体を動かし、腸の動きをよくする。水分をしっかりとるなど、日々心がけている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の排泄のリズムを、職員同士で、情報共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日中は、尿意や便意の訴えがなくても、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。尿量なども把握し、パットの種類も本人に合った物になっている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で、意見交換を行い、本人の置かれている状況を把握し、検討すべき内容を都度確認している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人の行動を把握し、特徴をつかんで、早めに声かけするようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人のサイズに合った物を用意し、排泄状況など、担当者会議などで、専門職を交えて相談し、顔z久野了解ももたらせてから行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	失禁のある人・排泄のしっかりしている人、利用者の状態に合わせて、紙パンツやパッドの使用をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	自然排便があるように、体を動かす、水分をしっかりとるなどの対応をしている。食事も、繊維質のあるものをしっかりとるように声かけを行う。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	利用者に、湯の温度や浴槽にかかる時間など、体調に差し支えのない程度で、希望を聞くようにしている。入浴の日程も、家族との外出や病院受診あの時など、出来る範囲で希望に沿うようにしている。	◎		○	週2回入浴できるようあらかじめ日程を決めている。体調が悪かったり、利用者が拒否したりした場合は、変更するなど柔軟に対応し、湯の温度や湯船に浸かる時間も利用者の希望に沿っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人一人、個別に入浴してもらおう。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	浴用のマタギや洗身など、出来る事は利用者にしてもらうようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴の拒否のある人は、時間を置く、気分が乗ってくるなど、本人の様子を見て行う。無理強いはしていない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、バイタルを測定し、顔色など確認する。入浴後も、状態観察はを行い、水分補給もしてもらう。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	本人の生活のリズムを把握し、一人一人の対応を行っている。	/	/	/	利用者が薬剤に頼らず安眠できるよう、日中はゲームや歌などのレクリエーション活動を行い、リビングで過ごしてもらうようになっている。夜間の不穏状態が続く利用者には、主治医に相談しながら対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼間の活動量や生活のリズムを把握し、夜間はしっかり眠れるように体操している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間眠れない時が何日も続くなど、本人の精神状態などを把握し、主治医と相談して、お薬の調整を行っている。また、昼間、眠気が強く、お薬が残っているようであれば、主治医と相談し、調整してもらっている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向を確認し、休息や昼寝の時間を設けるようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族からの電話を取り次いだり、本人の希望で、家族に連絡したりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	本人の希望があれば、職員が番号を回し、家族に連絡している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人の意向を確認して、その都度連絡しやすいようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙やはがきは、本人に手渡すようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人の意向を家族に伝え、連絡する事の理解を求めている。また、手紙を貰う事で、本人の楽しみが増える事も伝えている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	生活の中でお金の大切さは理解している。ただ、トラブルの原因にならないように、家族や本人に理解してもらっている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	家族と出かけ時など、一緒に食事や買い物など楽しんでもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	家族と一緒に出かけた時など、買い物を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し、お金の管理など希望我れば応じているが、本人の認知度の理解などは、家族に説明している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の管理は、家族と本人交えて相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金などは、施設として行っていない。管理方法は、家族と本人・施設とで相談して、決めている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や本人の希望にできるだけ沿うように、話し合いをしている。	◎	/	○	「利用者が季節を感じられるようにして欲しい」との家族の要望に応え、花見や散歩に出かけている。利用者の歩行訓練の要望にも対応し、日常生活の中で歩行器を使用しながら歩く機会を確保している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			◎	○	△	道路に面した玄関前には駐車スペースと花壇があり、手入れが行き届き清潔感がある。近隣住民が事業所へ気軽に立ち寄れるような雰囲気ではないため工夫して欲しい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうような設えになっていないか等。)	◎	共有スペースには、季節感のある飾りやレクで利用者と一緒に作った作品などを飾り、家庭的な雰囲気を感じている。	◎	○	○	建物内部は車いすでも使いやすい広々とした造りになっている。リビングには利用者がいつでも手に取れるようゲームやレクリエーションの道具を置き、ソファでくつろげるスペースも作っている。掃除が行き届き、不快な臭いなどもなく清潔である。季節を感じられるよう利用者と一緒に共用空間を飾り付けており、調査時には節分に向けて鬼の塗り絵を飾っていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	日々、清潔の面には心がけ、尿臭などは特に注意している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	対面キッチンになっており、食事の準備をしている匂いや御飯が炊ける匂いなど、生活感が実感できるようにしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	所々にソファを置き、一人で過ごす空間旁を行っている。座席の配置も、利用者同士の関係性を見ながら配置するようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレや浴室には、ドアが付いており、中から鍵もかかるようになっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご本人が趣味で作った物を部屋に飾ったり、使い慣れた家具や家族写真等、居室に置いている。趣味の大正琴やギターも持ち込んでいる。	○		◎	居室には電動ベッドとエアコン、整理たんすが備え付けられている。利用者は使い慣れた家具や家族写真を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレなどは、ドアに大きく表示をして分かりやすくしている。手すりも設置しており、一人で移動しやすいように、自立支援を心掛けている。			◎	建物内部はバリアフリーで手すりが設置され、利用者が安全に移動できる造りになっている。トイレには、お手洗いのプレートを貼るほか、ドアに大きくトイレの張り紙をしている。居室にも表札と利用者の目線の高さにも名札を貼るなど、利用者が自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	部屋には、名前を貼り、トイレにも張り紙をしている。職員が常に見守り、利用者の行動を把握し、声掛けに努めている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌は、フロア置き、いつでも読める様にしている。キッチンもオープンになっているので、コップ洗いなど、率先してくれる利用者もいる。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全ての職員がカギをかける弊害を理解している。ユニットの自動ドアはセンサーがあり、御家族にも説明し、理解を頂いている。	◎	◎	△	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は玄関の施錠をしていないが、ユニット入口の自動ドアには鍵がかかっており、利用者が自由に出入りできない状態になっている。今後は利用者にも閉塞感を与えないよう、鍵をかけない取組みを検討して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	自由の大切さをご家族に説明している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関には、センサーホーンがあり、出入りは確認できるようにしている。常に、利用者の所在確認を心掛けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	面接記録表やお薬情報など、常に頭に入れて支援している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定を行い、体調の変化に気を付け、全て記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	些細な事でも、職員同士で話あい、看護師と相談しながら、早期発見に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族や本人の意向で、主治医を決め、適的に病院受診を行って貰っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族の意向で、主治医を決めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院は、御家族が付き添い、受診結果を聞き取りし、御家族と相談しながら、適切な対応が出来る様に心掛けている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は、ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、退院の日程など、御家族交えて相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	服薬についての相談など、病院との関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の変化について、協力医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職に、いつでも相談できるオンコール体制を取っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルの変化や皮膚観察など、細かいところまで気を付け、看護師と相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	お薬情報をユニットに置き、いつでも見られるようにしている。職員や看護師で、情報の共有をしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は二人体制で行い、誤薬や飲み忘れがないか、確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々、水分や食事量の記録を残し、服薬による副作用について、気を付けている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	本人の状態を把握し、家族に伝え、主治医と相談してお薬の調整を行って貰っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	看取り指針を整備している。状態の変化について家族とそうd何市、ケアについても検討している。	/	/	/	事業所の看取り指針はあるが、法人の方針として積極的な看取りはしておらず、利用者が重度化した場合には、家族やかかりつけ医と相談して病院に入院するかたちで退居している。今後は職員に看取りの勉強会を行うなど、事業所でも看取りができる取組みを期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化していく利用者については、かかりつけ医や家族と相談し、方針を決めている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取り指針を整備している。勉強会などで、職員がどこまで関われるか行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	施設での対応が出来る事・できない事は、御家族に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	グループホームでの生活がどこまで出来るか、チームで相談し、医療との連携を図りながら繋げている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の相談は常に受付、少しでも精神的ケアが出来ればと支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染防止マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿った対応を行い、蔓延しないように気を付けている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染情報を入手し、早めに予防に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	新聞やニュースから情報を収集し、早めの予防に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・マスクの使用など、来訪者や家族にもお願いしている。マスクは、玄関に設置し、付けてもらうようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会の時など、御本人の状況を説明している。また、毎月、近況報告の手紙を郵送している。	/	/	/	年1回敬老会の案内を家族に行うほか、運営推進会議の参加者にも行事への参加を呼びかけている。来訪する機会が少ない家族を含め、毎月家族に近況報告の手紙を送付している。事業所の運営上の事柄や出来事は運営推進会議で報告しているが、会議の参加者以外には報告できていないため、家族への会議録の送付などを検討して欲しい。家族の来訪時には管理者が積極的に声をかけて利用者の日頃の様子を報告したり、家族と個別で話したり、相談する機会を設けたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気持ちの良い挨拶を心掛け、来訪時には、お茶の提供など、行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事の案内やおやつ作りなど、参加を呼びかけている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、近況報告の手紙を郵送している。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	面会や電話での問い合わせなど、すぐに状況を説明できるように、情報の共有を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族と以前の様子などをお聞きし、より良い関係性作りのお手伝いを行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議を2か月の1回行い、参加を呼び掛けている。施設としての活動内容など説明している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	行事や運営推進会議など、家族同士の交流を図っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	転倒のリスクなど説明し、家族や職員が一緒になって対策案を考えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には、必ず声をかけ、こちらからお話をするようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	時間をかけ具体的に説明し、理解してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	重要事項の内容の中に入れており、契約時には必ず目を通してもらい、納得して頂いている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定の時など、その都度、同意を頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	民生委員や近所の方に、説明を行い理解を頂いている。	/	◎	/	事業所として自治会に入っているが、地方祭にお花を出す程度のついでとなつている。運営推進会議で紹介してもらった公民館でのいきいき学級に参加したり、小学校の運動会を見に行ったり、誕生日の利用者と一緒に隣にある喫茶店に出かけたりしている。利用者は地域と日常的に関わりを持つまでには至っていないため、今後は地域と関係が深められる取組を期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	日頃の挨拶や自治会活動への参加など、心掛けている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	散歩の途中など、近所の方から声をかけて貰っている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	傾聴ボランティアの方の定期的な訪問がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	日頃の挨拶や会話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	ボランティアの踊りの方など、積極的に声をかける様になっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地方祭など、地域とのかかわりを持つようになっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くの理美容院に散髪をお願いしたり、喫茶店に行ったりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、利用者の家族や民生委員の方の参加をお願いしている。	○	/	△	運営推進会議は市役所の都合に合わせて平日の日中に開催し、家族や民生委員、市担当者に参加してもらっている。曜日や時間を調整して毎回違った家族に参加を呼びかけているが、平日の日中に参加することが難しい家族もいるため、日程を再度検討するほか、利用者も参加できるような工夫を期待したい。会議では、利用者やサービスの現状を報告し、出された意見や提案は、日々の取組みに活かすよう努めている。評価の取組み状況の報告はしていないため、地域住民の理解も得られていない。今後は外部評価の結果を含め、目標達成計画や取組み状況を報告するなど、地域住民から理解が得られるような方法を検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	目標達成計画の取り組みや、活動内容などを説明している。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	運営推進会議で出た事に対する取り組みなどを説明し、サービスの向上に努めている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	参加者が参加しやすい時間や日程を工夫している。また、常に同じメンバーでなく、違った家族にも声をかける様になっている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	行政に運営推進会議録を提出している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	パンフレットに理念を掲載している。理念に基づき、努力している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	パンフレットを渡し、説明している。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	内部研修を定期的に行い、技術・知識の向上に努めている。				新年会や親睦会など法人が費用を負担し、職員の気分転換の場を設けている。職員は希望休暇や有給休暇も取得できており、法人として働きやすい環境づくりに取り組んでいる。今後は地域にも認識してもらえるよう運営推進会議で事業所をPRするなどの取組みが望まれる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	OJTの制度をとり、新人職員の教育に取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	管理者が職員一人一人の評価を行い、代表者がそれに基づき、繁栄している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	研修への参加を等して、他の事業所との関りを持っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	親睦会などを通して、気分転換を図っている。	○	×	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待について理解し、勉強会も開催している。				不適切なケアを管理者やユニットリーダーが発見した場合は、場所を変えて職員を注意している。その他の職員が発見した場合は、ユニットリーダーに報告している。双方のケースとも、定期的な勉強会で話し合い、職員間で共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りや日々の現場の中で、話をする機会を持っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルに基づき、対応している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日々の職員の行動や声かけなど、注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会を通して理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会などで、具体的な事例をあげ、意識の向上に努めている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	弊害について説明し、理解を頂いている。代替になるケアについても相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	知識の向上のために、勉強会を開催している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	相談のある場合は、パンフレットなどの情報提供を行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	支援が必要な方へは、行政への連携を図っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、勉強会で周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	応急手当や初期対応など勉強している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	毎回、対策案を検討し、事故防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	身体状況を把握し、事故防止について検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、勉強会をしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情対策についての手順も整備している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があれば、速やかに対応し、回答する手順は構築している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の設置をしており、運営推進会議でも、意見をうかがっている。	/	/	○	利用者からの意見や要望は、日常の関わりの中で聞くようにしている。家族からの意見や要望は、運営推進会議のほか、面会時や電話連絡時に聞くようにしている。管理者は日常的に通常業務に入りながら、利用者本位の支援について職員と話し合う機会を作っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の設置をしており、運営推進会議でも、意見をうかがっている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	面会の時など、積極的にかかわるようにしており、コミュニケーションに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	管理者と連携し、職員の意見をくみ取るようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	利用者の支援の為、職員とはかかわりを密に持つようにしている。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム竹梅小路

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行い、目標設定を行っている。				前回初めて受けた外部評価の結果と目標達成計画は、市担当者にしか報告していない。今後は家族など運営推進会議への参加者の理解が得られるよう報告し、モニターを依頼して今後の運営に活かして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題分析を行い、知識の向上に努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	具体的な目標設定を考えている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画を報告している。	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価を受けた後、取り組みの成果の確認して行くようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成、職員が周知している。				年2回避難訓練は実施し、緊急通報は事業所の隣に住む民生委員に協力してもらっているが、訓練は事業所職員のみで実施している。今後は消防署の協力のもと、家族や地域住民にも参加してもらい、近隣の他事業所とも連携を図るなど、緊急災害時の協力体制を構築し、利用者の安全確保に万全を期すことを望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災は、夜間を想定して訓練計画をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	非常災害用の食材をそろえ、レシピの試食も行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回の訓練を実施。避難経路について、運営推進会議でも話し合っている。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方・民生委員との協力をお願いしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	認知症サポート研修への参加を行っている。				居宅介護支援事業所を通して事業所への入居相談がある場合は対応しているが、地域住民への相談支援は不十分である。今後は地域に事業所の相談支援について知ってもらい、関係機関の協力を得ながら地域活動に積極的に取り組むなど、事業所の知名度を上げる工夫を望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族や居宅介護支援事業所を通して、相談にのっている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	踊りのボランティアさんの参加を積極的の呼びかけている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	外国人研修生の受け入れ準備を行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	法人内の特養施設と連携し、地域とのかかわりを大切にしている。			×	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年1月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890600343
事業所名 (ユニット名)	社会福祉法人 亀天会 グループホーム竹梅小路 竹ユニット
記入者(管理者) 氏名	合田昌幸
自己評価作成日	令和2年1月6日

<p>【事業所理念】 ～あたたかく、さりげなく～「出会い」と「笑顔」を大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・日常的に外出を行う。→地方祭や紅葉狩り・初詣など、近くの神社まで散歩し、季節の実感してもらえるように対応した。気分転換が出来、とても喜んでた。 ・どのご家族にも施設の活動状況を同じように理解してもらう。→運営推進会議の案内は、決まって人でなく参加をお願いしている。広報誌にも、その様子を掲載している。 ・災害の備えについて→防災訓練の実施報告を運営推進会議で行い、非常食の試食会も近くの同法人特養施設と行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して3年目の事業所は中心市街地に立地し、建物は新しく広々としており、利用者が安全に移動できるよう、建物内はバリアフリーで手すりが設置されている。管理者は長らく在宅支援に携わり、法人内の他事業所から異動してきたばかりであるが、利用者の自立支援に向けた取組みを実践している。今後は地域との交流など活動の幅を広げていくことで、さらに発展することが期待できる事業所である。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入所事前面接で、ご家族やご本人に移行の確認をしている。日々の暮らしの中で、利用者との会話を大切に、ご本人の意向を尊重している。	○	/	○	利用者との日々の関わりや日常会話の中から、職員は一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ご本人の表情は観察し、職員間で話をしてご本人の立場に立って考えるようにしている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会に来られた時に、施設の様子を伝え、お家での様子や若いころの様子などを聞きながら、ご本人の思いをくみ取るようにしている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日々の生活の中で、ご本人との会話など、記録を残し、情報共有に努めている。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	ご本人の言葉や言動に注意し、尊厳を持って対応している。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所事前面接で、生活歴の聞き取りをしっかりと行い、本人の趣味や楽しみが続けていくことが出来るように、アセスメントをしっかりとっている。	/	/	○	入居時に事前面談を行い、これまでの暮らしについて利用者や家族から聞き取るほか、これまでに関わってきた介護支援専門員や関係機関からもサービス利用の経過などの情報を得て、職員間で共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来る事・できないことを見極め、出来る事は続けられるように支援している。また、出来るようなことを見つけ出し、少しずつ出来るように支援している。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	毎日の生活の中で、ご本人の細かい観察を行い、どのような場面になると表情が変わるかなど、職員間で情報交換を行っている。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	朝・夕の申し送りや担当者会議など、不安要因が何かを探り、改善に努めている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	ご本人の生活リズムを把握し、個々のケアに努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	アセスメントの内容は、ユニットで共有し、チームとしてケアに当たっている。	/	/	○	家族の意向や要望も含め、日々得られた情報は職員間で共有し、利用者の視点で検討している。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ご本人の状態を把握し、変化のある時は、その都度話し合い、必要な支援方法を探っている。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	日々の生活状況を共有し、ご本人の課題とする内容を見つけ出している。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	支援方法など、具体的内容を書き込み、職員の方向性が同じ方向に向くように計画書を作成している。	/	/	/	利用者や家族の意向を踏まえて関係者で話し合い、出された意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	担当者会議などを通し、ご家族の思いや希望などを考慮しながら、専門職としての意見交換を行い、計画書の作成を行っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	意思疎通の困難な利用者には、ご家族の聞き取りを行い、ご本人の思いをくみ取るようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	ご家族の支援や地域ボランティアなどを取り込み、チームケアを心掛けている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員一人一人が計画書を理解し、計画書に沿ったケアに努めている。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画は、担当者会議や申し送りで共有している。モニタリングは月1回行っているが、計画に沿ったケアの実践や結果の記録が不足しているため、職員間で話し合い、根拠のあるモニタリングができるよう工夫して欲しい。利用者の言葉や行動など暮らしの様子は介護記録に記録し、職員の気づきやアイデアなどは申し送りノートに記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の記録は、介護計画書に基づき、記入するようにしている。職員が記録を見る事で、情報の共有が出来ている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ケース記録に、その日の利用者の言葉やしぐさなど、記録に残している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	毎日、個々に記録を残し、ご本人の様子や気づきを記入するように心がけている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じた見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとに見直しをしている。変化が見られない場合でも毎月モニタリングを実施し、利用者の現状確認を行っている。入院など状態に変化が生じた場合は、必要に応じて担当者会議を開催し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	モニタリングを毎月行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ご本人の身体状況の変化があった時は、見直しを行い、新しい計画作成を行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	計画の見直しの時には、会議を開き、ケアの統一を図っている。	/	/	○	現在、定期的には会議を開催していないが、緊急案件や課題が明らかになった場合は、その都度出勤職員で話し合いを行っている。話し合いに参加できなかった職員には、申し送りノートや口頭で伝達し、申し送りノートは確認後に押印する仕組みを作っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	各専門職からの意見を聞き、話しやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	ユニット職員が参加しやすいユニット内で会議を行い、落ち着いた時間帯を設定している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議の内容は、申し送りノートに記入し、情報共有を行っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートやユニット内のホワイトボードを利用している。	/	/	◎	利用者の受診日時や職員会議の予定などはホワイトボードに記入し、利用者一人ひとりの情報や会議の内容などは申し送りノートに記入して職員間で共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	回覧簿をつけ、終始徹底に努めている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	季節を実感しながら、やりがいを見つけられるように支援している。	/	/	/	洋服や飲み物、レクリエーションなど、日々の暮らしの様々な場面で利用者が自己決定できるよう、職員は利用者のペースに合わせてながら対応している。ゲームや体操、歌など利用者の得意なことを活かし、職員は活き活きとした表情を引き出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	生活の中で、洋服を選ぶ・好きな飲み物を選んでもらうなど、考える時間を取り、ゆっくり対応する事で、選ぶ楽しさを見つけている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	焦らすことなく、ゆっくり職員が対応し、自己決定が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	ご本人の意向を確認し、利用者主体で、一つ一つのケアを行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	ご本人の楽しみや得意としているものを聞き出し、役割のある暮らしが出来るように支援している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や小津差で、利用者本人の気持ちをくみ取るように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	勉強会を通して、日々言葉かけや態度など、気を付けている。	○	×	△	職員は利用者の人権や尊厳に配慮した声かけや態度などについて研修で学び、常に意識して行動している。地域アンケートの評価が低く、地域にはそのことを認識してもらえていないと思われるため、今後は地域にも認識してもらえよう努めて欲しい。トイレ誘導の際も、利用者にさりげない声かけをして対応している。利用者の居室はきちんと閉められており、出入りの際には職員はノックや声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	トイレ誘導や入浴の声かけなど、ご本人の尊厳を配慮した声かけを行う。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	本人の羞恥心を考え、ドアを開け、大声で話さないなど、配慮した対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	職員は、居室に入る時は、ノックして入り、ドアを開ければなしにしない。プライバシーの保護に努めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者の知りえた情報を口外せず、漏えい防止に止めている。また、研修も行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	ご本人のできる能力活かしてもらえように、出来る事は手伝ってもらっている。人生の先輩として、尊敬の念を忘れないようにしている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握している。トラブルを未然に防ぐ配慮を考え、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるよう配慮している。法人合同のイベントでは、くじを引いて席を決め、利用者が孤立しないよう工夫をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いにいたわりあいながら、暮らしており、職員も大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	それぞれの特技を理解し、利用者職員が関わりながら生活している。認知症の人ばかりなので、一人だけ孤立しないように、職員が間に入り、座席の配慮など行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が常に見守りを行い、トラブルになりそう時は、うまく話をそらし、間に入る。トラブル回避が出来ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所面接に生活歴の聞き取る際、ご本人の人間関係の情報収集を行っている。	/	/	/	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所面接時の聞き取りや入所後の会話を通して、情報収集をしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	長年住み慣れてきた地域との関りを途絶える事ない様に、家族の協力を得ている。また、友人の面会もある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	家族や友人の面会時には、居室に誘導し、ゆっくりお話ができるように気を付け、来客者にもお茶を提供している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	ご家族の協力も得て、外出する機会を多く持つようにしている。利用者の気分転換を兼ねて、季節行事には外出する機会を持つようにしている。	△	×	△	つつじやあじさい、さくらなど季節の花見、近所の神社への散歩、誕生日の利用者と一緒に隣にある喫茶店に出かけるなど、外出の機会を持つようにしているが、頻度は月1回程度にとどまっている。今後は重度の利用者を含め、玄関先に出て外気浴をするなど、気分転換が図れる取組みを望みたい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	職員や家族の対応で、外出する機会を持っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	利用者全員が外出する機会が持てるように支援している。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	喫茶店への外出行事など取り入れている。家族も訪問時には、本人の好きな所へ一緒に出掛け、食事など楽しんでいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症についての内部研修を行い、一人一人の症状にあったケアを心掛けている。	/	/	/	職員は利用者のできることを把握し、一人ひとりが能力を発揮できるよう見守り支援を心がけている。調査時には、食事やトイレ移動の場面で職員が極力手を出さず、利用者を見守る姿が確認できた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日常生活の中で、体操やレクで体動かし、機能の維持が出来るように支援している。トイレや浴室・居室など、フロアの移動時にご自分で歩き、食事や排泄も出来る所は、時間がかかってもご自分でしてもらえるように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	焦らず、ゆっくり見守り、ご自分ができる能力を発揮できるようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所面接やご本人との会話の中で、出来る所・得意とするところを見つけ、役割のある暮らしが出来るように支援している。	/	/	/	洗濯物たたみや下膳、コップ洗い、おやつ作り、楽器演奏など、職員は、利用者が得意なことを活かして楽しみながら役割や出番を担えるようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人のレベルに合わせた支援の中で、出来る事を見つけて出し、少しでも、役割を持って生活が出来るように、支援していく。	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	外出時の挨拶・地方祭の見学など、地域の中での楽しみが持てるように支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	家族や本人の聞き取りの中で、今までの暮らしを把握している。				排泄後の着衣の乱れや食事の際の食べこぼしは、利用者の自尊心を傷つけないよう、さりげない声かけをしてカバーしている。重度の利用者を含め、2か月に1回は訪問理美容で好みの髪型にカットしたり、朝夕に更衣を行って季節に合った服装に着がえたりするなど、その人らしさを損なわないようにしている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご家族が持って来てくれる化粧道具を使って化粧したり、洋服を選んだり、その人らしい暮らしが出来るように支援している。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員が利用者者に似合う色や洋服選びなどしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	家族に衣替えをお願い、季節に合った洋服選びを行い、外出時にはいつもと違っておしゃれをしてみようようにしている。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	職員が利用者者にそれとなく声かけを行い、スポンを直したり、おしぼりで口を拭いたりしている。		○	○		○
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人の馴染みのお店に行き、髪を切っている利用者もいるが、家族の意向で、訪問理美容を利用する方が多い。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	訪問理美容や職員の支援で、ご本人に沿った支援が出来ている。					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の大切さを理解する事が出来ている。				食事は、委託業者から冷凍食品を仕入れ、事業所では炊飯と汁物を作り、届いた副食を湯煎して提供している。利用者はコップや箸並べ、下膳、コップ洗いをしている。献立づくりの際には、利用者の好みやアレルギーを考慮して代替食にしたり、季節の食材を取り入れたりしている。食器は利用者の状態に応じ、使いやすいものを事業所で用意している。職員は休憩時間を優先し、利用者と一緒に食事を摂っていないため、管理者などには利用者と一緒に食卓を囲めるよう業務分担するなどの検討をして欲しい。利用者は、日中はほとんどリビングで過ごし、食事の時間には対面キッチンから漂う炊飯の匂いを感じている。食事前の口腔体操や献立の紹介など、食事が待ち遠しくなる雰囲気づくりにも努めている。毎月給食会議を開催し、法人の管理栄養士に食事形態などを相談し、バランスの取れた食事が提供できるよう話し合い、業者に伝えている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事の準備や下膳・コップ洗いなど、利用者と一緒にやっている。					○
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	お手伝いをしてもらうことで、ご本人の表情が明るくなり、積極的に関わってくれるようになっていく。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者のアレルギーの把握を行い、代替え食材を準備するなどの対応を行っている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	季節感を実感できる献立作りを行っており、おやつ作り等も、一緒に作り、季節感を味わってもらっている。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いづれ器の工夫等)	◎	いづれ器を考えた盛り付けや食器選びなど、食欲をそそるように工夫している。食べやすい食事作りをここがけている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	持ちやすい・軽い物を選んでいる。					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事は利用者のみで行い、常に見守り・介助を行っている。					△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	同じフロアで食事の準備を行い、ニオイや雰囲気を感じてもらえるようにしている。		○			○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分摂取量や食事量など、毎日把握し記録に残している。水分は、一日1000ccは摂ってもらえるように対応している。					
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取量の確保に、お茶だけでなく本人の嗜好に合わせた飲み物を提供するようにしている。回数を多くしたり、タイミングをずらしたりして、対応している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	委託業者より食材が届くが、施設の意向などを伝え、季節感を実感できる献立を考えて買っている。					◎
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	内部研修を行い、衛生面に気を付け、感染予防に努めている。					

愛媛県グループホーム竹梅小路

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの大切さを理解し、口腔ケアの徹底に努めている。				利用者は毎食後リビングの洗面台で口腔ケアを行い、職員は一人ひとりの口の中の健康状況を確認している。できない部分は職員が助勢し、義歯は夜間洗浄液に浸けている。利用者の口腔内の衛生状況には十分留意し、清潔が保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後、口腔ケアを行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	口腔ケアの大切さも理解し、歯科往診の時など、歯科衛生士から指導も受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の手入れの介助を行い、洗浄剤に浸けている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨きが出来ない人には、歯磨きの介助を行い、口の中の清潔保持に努めています。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	本人・家族と相談し、往診や歯科受診などに繋げている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレで排泄が出来るように、日中はトイレ誘導を行い、身体機能の維持や意欲の控除湯に繋げている。				利用者がトイレで排泄することを基本として支援しており、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへ誘導をしている。おむつなど排泄用品の使用は職員間で話し合い、その時々利用者の状態に合ったものを使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	レクや体操を通して体を動かし、腸の動きをよくする。水分をしっかりとるなど、日々心がけている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の排泄のリズムを、職員同士で、情報共有している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日中は、尿意や便意の訴えがなくても、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。尿量なども把握し、パットの種類も本人に合った物になっている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で、意見交換を行い、本人の置かれている状況を把握し、検討すべき内容を都度確認している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	本人の行動を把握し、特徴をつかんで、早めに声かけするようにしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人のサイズに合った物を用意し、排泄状況など、担当者会議などで、専門職を交えて相談し、顔ぶれも解らしてから行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	失禁のある人・排泄のしっかりしている人、利用者の状態に合わせて、紙パンツやパッドの使用をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	自然排便があるように、体を動かす、水分をしっかりとるなどの対応をしている。食事も、繊維質のあるものをしっかりとるように声かけを行う。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	利用者に、湯の温度や浴槽にかかる時間など、体調に差し支えのない程度で、希望を聞くようにしている。入浴の日程も、家族との外出や病院受診の時など、出来る範囲で希望に沿うようにしている。	◎		○	週2回入浴できるようあらかじめ日程を決めている。体調が悪かったり、利用者が拒否したりした場合は、変更するなど柔軟に対応し、湯の温度や湯船に浸かる時間も利用者の希望に沿っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	一人一人、個別に入浴してもらおう。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	浴用のマタギや洗身など、出来る事は利用者にしてもらうようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴の拒否のある人は、時間を置く、気分が乗ってくるなど、本人の様子を見て行う。無理強いはいしていない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、バイタルを測定し、顔色など確認する。入浴後も、状態観察はを行い、水分補給もしてもらう。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	本人の生活のリズムを把握し、一人一人の対応を行っている。	/	/	/	利用者が薬剤に頼らず安眠できるよう、日中はゲームや歌などのレクリエーション活動を行い、リビングで過ごしてもらうようになっている。夜間の不穏状態が続く利用者には、主治医に相談しながら対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼間の活動量や生活のリズムを把握し、夜間はしっかり眠れるように体操している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間眠れない時が何日も続くなど、本人の精神状態などを把握し、主治医と相談して、お薬の調整を行っている。また、昼間、眠気が強く、お薬が残っているようであれば、主治医と相談し、調整してもらっている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向を確認し、休息や昼寝の時間を設けるようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族からの電話を取り次いだり、本人の希望で、家族に連絡したりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	本人の希望があれば、職員が番号を回し、家族に連絡している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人の意向を確認して、その都度連絡しやすいようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙やはがきは、本人に手渡すようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人の意向を家族に伝え、連絡する事の理解を求めている。また、手紙を貰う事で、本人の楽しみが増える事も伝えている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	生活の中でお金の大切さは理解している。ただ、トラブルの原因にならないように、家族や本人に理解してもらっている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	家族と出かけ時など、一緒に食事や買い物など楽しんでもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	家族と一緒に出かけた時など、買い物を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し、お金の管理など希望我れば応じているが、本人の認知度の理解などは、家族に説明している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の管理は、家族と本人交えて相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金などは、施設として行っていない。管理方法は、家族と本人・施設とで相談して、決めている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や本人の希望にできるだけ沿うように、話し合いをしている。	◎	/	○	「利用者が季節を感じられるようにして欲しい」との家族の要望に応え、花見や散歩に出かけている。利用者の歩行訓練の要望にも対応し、日常生活の中で歩行器を使用しながら歩く機会を確保している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			◎	○	△	道路に面した玄関前には駐車スペースと花壇があり、手入れが行き届き清潔感がある。近隣住民が事業所へ気軽に立ち寄れるような雰囲気ではないため工夫して欲しい。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共有スペースには、季節感のある飾りやレクで利用者と一緒に作った作品などを飾り、家庭的な雰囲気を感じている。	◎	○	○	建物内部は車いすでも使いやすい広々とした造りになっている。リビングには利用者がいつでも手に取れるようゲームやレクリエーションの道具を置き、ソファでくつろげるスペースも作っている。掃除が行き届き、不快な臭いなどもなく清潔である。季節を感じられるよう利用者と一緒に共用空間を飾り付けており、調査時には節分に向けて鬼の塗り絵を飾っていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	日々、清潔の面には心がけ、尿臭などは特に注意している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	対面キッチンになっており、食事の準備をしている匂いや御飯が炊ける匂いなど、生活感が実感できるようにしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	所々にソファを置き、一人で過ごす空間旁を行っている。座席の配置も、利用者同士の関係性を見ながら配置するようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレや浴室には、ドアが付いており、中から鍵もかかるようになっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご本人が趣味で作った物を部屋に飾ったり、使い慣れた家具や家族写真等、居室に置いている。趣味の大正琴やギターも持ち込んでいる。	○		◎	居室には電動ベッドとエアコン、整理たんすが備え付けられている。利用者は使い慣れた家具や家族写真を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレなどは、ドアに大きく表示をして分かりやすくしている。手すりも設置しており、一人で移動しやすいように、自立支援を心掛けている。			◎	建物内部はバリアフリーで手すりが設置され、利用者が安全に移動できる造りになっている。トイレには、お手洗いのプレートを貼るほか、ドアに大きくトイレの張り紙をしている。居室にも表札と利用者の目線の高さにも名札を貼るなど、利用者が自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	部屋には、名前を貼り、トイレにも張り紙をしている。職員が常に見守り、利用者の行動を把握し、声掛けに努めている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌は、フロア置き、いつでも読める様にしている。キッチンもオープンになっているので、コップ洗いなど、率先してくれる利用者もいる。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全ての職員がカギをかける弊害を理解している。ユニットの自動ドアはセンサーがあり、御家族にも説明し、理解を頂いている。	◎	◎	△	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は玄関の施錠をしていないが、ユニット入口の自動ドアには鍵がかかっており、利用者が自由に出入りできない状態になっている。今後は利用者にも閉塞感を与えないよう、鍵をかけない取組みを検討して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	自由の大切さをご家族に説明している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関には、センサーホーンがあり、出入りは確認できるようにしている。常に、利用者の所在確認を心掛けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	面接記録表やお薬情報など、常に頭に入れて支援している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定を行い、体調の変化に気を付け、全て記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	些細な事でも、職員同士で話あい、看護師と相談しながら、早期発見に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族や本人の意向で、主治医を決め、適的に病院受診を行って貰っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族の意向で、主治医を決めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院は、御家族が付き添い、受診結果を聞き取りし、御家族と相談しながら、適切な対応が出来る様に心掛けている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は、ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、退院の日程など、御家族交えて相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	服薬についての相談など、病院との関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の変化について、協力医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職に、いつでも相談できるオンコール体制を取っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルの変化や皮膚観察など、細かいところまで気を付け、看護師と相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	お薬情報をユニットに置き、いつでも見られるようにしている。職員や看護師で、情報の共有をしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は二人体制で行い、誤薬や飲み忘れがないか、確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々、水分や食事量の記録を残し、服薬による副作用について、気を付けている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	本人の状態を把握し、家族に伝え、主治医と相談してお薬の調整を行って貰っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	看取り指針を整備している。状態の変化について家族とそうd何市、ケアについても検討している。	/	/	/	事業所の看取り指針はあるが、法人の方針として積極的な看取りはしておらず、利用者が重度化した場合には、家族やかかりつけ医と相談して病院に入院するかたちで退居している。今後は職員に看取りの勉強会を行うなど、事業所でも看取りができる取組みを期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化していく利用者については、かかりつけ医や家族と相談し、方針を決めている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取り指針を整備している。勉強会などで、職員がどこまで関われるか行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	施設での対応が出来る事・できない事は、御家族に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	グループホームでの生活がどこまで出来るか、チームで相談し、医療との連携を図りながら繋げている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の相談は常に受付、少しでも精神的ケアが出来ればと支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染防止マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿った対応を行い、蔓延しないように気を付けている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染情報を入手し、早めに予防に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	新聞やニュースから情報を収集し、早めの予防に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・マスクの使用など、来訪者や家族にもお願いしている。マスクは、玄関に設置し、付けてもらうようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会の時など、御本人の状況を説明している。また、毎月、近況報告の手紙を郵送している。	/	/	/	年1回敬老会の案内を家族に行うほか、運営推進会議の参加者にも行事への参加を呼びかけている。来訪する機会が少ない家族を含め、毎月家族に近況報告の手紙を送付している。事業所の運営上の事柄や出来事は運営推進会議で報告しているが、会議の参加者以外には報告できていないため、家族への会議録の送付などを検討して欲しい。家族の来訪時には管理者が積極的に声をかけて利用者の日頃の様子を報告したり、家族と個別で話したり、相談する機会を設けたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気持ちの良い挨拶を心掛け、来訪時には、お茶の提供など、行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事の案内やおやつ作りなど、参加を呼びかけている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、近況報告の手紙を郵送している。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	面会や電話での問い合わせなど、すぐに状況を説明できるように、情報の共有を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族と以前の様子などをお聞きし、より良い関係性作りのお手伝いを行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議を2か月の1回行い、参加を呼び掛けている。施設としての活動内容など説明している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	行事や運営推進会議など、家族同士の交流を図っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	転倒のリスクなど説明し、家族や職員が一緒になって対策案を考えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には、必ず声をかけ、こちらからお話をするようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	時間をかけ具体的に説明し、理解してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	重要事項の内容の中に入れており、契約時には必ず目を通してもらい、納得して頂いている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定の時など、その都度、同意を頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	民生委員や近所の方に、説明を行い理解を頂いている。	/	◎	/	事業所として自治会に入っているが、地方祭にお花を出す程度のついでとなつている。運営推進会議で紹介してもらった公民館でのいきいき学級に参加したり、小学校の運動会を見に行ったり、誕生日の利用者と一緒に隣にある喫茶店に出かけたりしている。利用者は地域と日常的に関わりを持つまでには至っていないため、今後は地域と関係が深められる取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	日頃の挨拶や自治会活動への参加など、心掛けている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	散歩の途中など、近所の方から声をかけて貰っている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	傾聴ボランティアの方の定期的な訪問がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	日頃の挨拶や会話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	ボランティアの踊りの方など、積極的に声をかける様になっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地方祭など、地域とのかかわりを持つようになっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くの理美容院に散髪をお願いしたり、喫茶店に行ったりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、利用者の家族や民生委員の方の参加をお願いしている。	○	/	△	運営推進会議は市役所の都合に合わせて平日の日中に開催し、家族や民生委員、市担当者に参加してもらっている。曜日や時間を調整して毎回違った家族に参加を呼びかけているが、平日の日中に参加することが難しい家族もいるため、日程を再度検討するほか、利用者も参加できるような工夫を期待したい。会議では、利用者やサービスの現状を報告し、出された意見や提案は、日々の取組みに活かすよう努めている。評価の取組み状況の報告はしていないため、地域住民の理解も得られていない。今後は外部評価の結果を含め、目標達成計画や取組み状況を報告するなど、地域住民から理解が得られるような方法を検討して欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	目標達成計画の取り組みや、活動内容などを説明している。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	運営推進会議で出た事に対する取り組みなどを説明し、サービスの向上に努めている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	参加者が参加しやすい時間や日程を工夫している。また、常に同じメンバーでなく、違った家族にも声をかける様になっている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	行政に運営推進会議録を提出している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	パンフレットに理念を掲載している。理念に基づき、努力している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	パンフレットを渡し、説明している。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	内部研修を定期的に行い、技術・知識の向上に努めている。				新年会や親睦会など法人が費用を負担し、職員の気分転換の場を設けている。職員は希望休暇や有給休暇も取得できており、法人として働きやすい環境づくりに取り組んでいる。今後は地域にも認識してもらえるよう運営推進会議で事業所をPRするなどの取組みが望まれる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	OJTの制度をとり、新人職員の教育に取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	管理者が職員一人一人の評価を行い、代表者がそれに基づき、繁栄している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	研修への参加を等して、他の事業所との関わりを持っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	親睦会などを通して、気分転換を図っている。	○	×	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待について理解し、勉強会も開催している。				不適切なケアを管理者やユニットリーダーが発見した場合は、場所を変えて職員を注意している。その他の職員が発見した場合は、ユニットリーダーに報告している。双方のケースとも、定期的な勉強会で話し合い、職員間で共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りや日々の現場の中で、話をする機会を持っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルに基づき、対応している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日々の職員の行動や声かけなど、注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会を通して理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会などで、具体的な事例をあげ、意識の向上に努めている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	弊害について説明し、理解を頂いている。代替になるケアについても相談している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	知識の向上のために、勉強会を開催している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	相談のある場合は、パンフレットなどの情報提供を行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	支援が必要な方へは、行政への連携を図っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、勉強会で周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	応急手当や初期対応など勉強している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	毎回、対策案を検討し、事故防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	身体状況を把握し、事故防止について検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、勉強会をしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情対策についての手順も整備している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があれば、速やかに対応し、回答する手順は構築している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の設置をしており、運営推進会議でも、意見をうかがっている。	/	/	○	利用者からの意見や要望は、日常の関わりの中で聞くようにしている。家族からの意見や要望は、運営推進会議のほか、面会時や電話連絡時に聞くようにしている。管理者は日常的に通常業務に入りながら、利用者本位の支援について職員と話し合う機会を作っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の設置をしており、運営推進会議でも、意見をうかがっている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	面会の時など、積極的にかかわるようにしており、コミュニケーションに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	管理者と連携し、職員の意見をくみ取るようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	利用者の支援の為、職員とはかかわりを密に持つようにしている。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム竹梅小路

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行い、目標設定を行っている。				前回初めて受けた外部評価の結果と目標達成計画は、市担当者にしか報告していない。今後は家族など運営推進会議への参加者の理解が得られるよう報告し、モニターを依頼して今後の運営に活かして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題分析を行い、知識の向上に努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	具体的な目標設定を考えている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画を報告している。	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価を受けた後、取り組みの成果の確認して行くようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成、職員が周知している。				年2回避難訓練は実施し、緊急通報は事業所の隣に住む民生委員に協力してもらっているが、訓練は事業所職員のみで実施している。今後は消防署の協力のもと、家族や地域住民にも参加してもらい、近隣の他事業所とも連携を図るなど、緊急災害時の協力体制を構築し、利用者の安全確保に万全を期すことを望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災は、夜間を想定して訓練計画をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	非常災害用の食材をそろえ、レシピの試食も行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回の訓練を実施。避難経路について、運営推進会議でも話し合っている。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方・民生委員との協力をお願いしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	認知症サポート研修への参加を行っている。				居宅介護支援事業所を通して事業所への入居相談がある場合は対応しているが、地域住民への相談支援は不十分である。今後は地域に事業所の相談支援について知ってもらい、関係機関の協力を得ながら地域活動に積極的に取り組むなど、事業所の知名度を上げる工夫を望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族や居宅介護支援事業所を通して、相談にのっている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	踊りのボランティアさんの参加を積極的の呼びかけている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	外国人研修生の受け入れ準備を行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	法人内の特養施設と連携し、地域とのかかわりを大切にしている。			×	